新年のご挨拶

院長 沼尾利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は当院にとって記念すべき年でした。9月には一般病棟の7対1看護体制と2交代制（一部）を導入し、10月からは地域包括ケア病棟を開設・増床（60床）、11月には新病棟（6階建て、免震構造）が完成して運用を開始しました。今回の新病棟は病院機能全体の約半分であり、残りの病棟や外来棟・管理棟などを含めた全面建て替えが今後の大きな目標です。

当院の特徴を一言で表すならば、『多様性（ダイバーシティ）』ということになります。つまり、急性期医療から慢性期医療まで、あるいは「治す医療」から「支える医療」まで、多種多様な患者さんに、多彩な人材が、多様な医療を提供しています。「多様性のある組織は強い」と言われますが、診療内容や人材そして建物までも（笑）変化に富んだ病院と言えるでしょう。

「多様で多彩」と言えば、江戸後期の浮世絵の巨匠である葛飾北斎の名品展（ボストン美術館所蔵）を最近観る機会がありました。北斎は風景、花鳥、美人、役者と多様な領域を描いており、90年の生涯で数多くの作品を残しました。「下野黒髪山きりふりの滝」は日光三名瀑の1つである霧降の滝を、大胆な構図と細やかな描写で色彩鮮やかに表現しており、北斎晩年の傑作の1つです。老いてなお新しい表現に挑戦し続けた北斎のように、長い歴史のある当院も社会の変化に対応してチャレンジを続けることが求められています。

時代がどんなに変わろうとも、私たちがなすべきことは変わりません。地域との連携をより一層推進させながら、治らない病気や重い障害があっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう、「地域包括ケア」の実現を目指して努力いたしますので、本年も皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

下野黒髪山きりふりの滝（葛飾北斎）